

三職能合同交流会を開催しました。

10月5日(土)「災害に備えて互いの役割を理解し、
つなぐ看護を考える」をテーマに開催しました。



静岡大学防災総合センター特任教授の岩田孝仁先生による講演「想像力の欠如に陥らない防災～能登半島地震の教訓を防災・減災にどう生かすか」を拝聴しました。

先生は、災害を「想定外」とせず、災害時に地域社会で何が起き、どのように連鎖していくのか、様々な知見や科学的リテラシーをフルに使い想像力たくましく考え、そして「確実に備えておく」



ことの重要性について述べられました。そして、見えてくる対策があれば言い訳をしないでそれを実行する⇒「想像力の欠如が被害を拡大する」想像しても実行しないは論外であるとも・・・その後、保健師職能、助産師職能、看護師職能Ⅰ、看護師職能Ⅱ、各職能から災害支援にご尽力いただきました皆さんの実践報告がありました。皆さんが「能登半島地震での活動」を振り返り過酷な現状の中でも、それぞれの役割を発揮した実践の報告、意見交換では「受援体制の必要性」についても意見が出ました。



「平時にできないことは災害時にもできない」ことから、院内のリリーフ体制を取っている時から動けるようにしておくことが重要。そのためにもリリーフを呼ぶための受援体制の整備が必要であることを共有しました。

※ 岩田先生講義資料より 能登の震災を自分自身にあてはめ防災対策を再構築！！

- 1.性能表示 能力や限界を明らかにし、皆が共有
- 2.BCP(計画)を BCM (マネジメント) の視点でチェック
- ①不足は何か？代替手段はあるのか？
- ②限られた資源で何ができるか？
- ③不足を補い、防災訓練で具体的な対応をチェック
- ④災害時事務分掌の明確化 誰(どこ)が何を対応するのか

岩田先生、発表者の皆さま、ありがとうございました。